

各 位

会 社 名 東洋シャッター株式会社
 代表者名 取締役社長 岡田 敏夫
 (コード番号5936 東・大 第1部)
 問合せ先 常務執行役員経営企画統括部長
 丸山 明雄
 (TEL 06-4705-2125)

業績予想値と実績値の差異及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は平成22年6月30日に公表した平成23年3月期第2四半期の業績予想値と実績値の差異及び平成23年3月期通期の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 平成23年3月期第2四半期(平成22年4月1日～平成22年9月30日)業績予想値と実績値の差異
 (1) 個別業績予想数値と実績値の差異

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	7,500	100	50	△680
今回実績値 (B)	7,022	△199	△237	△972
増減額 (B - A)	△478	△299	△287	△292
増減率 (%)	△6.4	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成21年9月期)	7,699	△315	△367	△344

- (2) 連結業績予想数値と実績値の差異

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	7,500	100	50	△680
今回実績値 (B)	7,022	△199	△235	△968
増減額 (B - A)	△478	△299	△285	△288
増減率 (%)	△6.4	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成21年9月期)	7,699	△317	△369	△346

- (3) 差異の理由

個別業績につきましては、建設関連投資の低迷が一昨年来続くことによる厳しい受注競争の中で、積極的な営業活動による受注確保と、一時帰休の継続実施等コスト削減に取り組んで参りました。その結果、第2四半期の期間損益で営業利益で若干の黒字となりましたものの、競争激化による販売価格の低迷が昨年来取り組んで参りましたコスト削減効果を上回り、売上高及び営業利益にも大きく影響を与えたことから、平成22年6月30日に公表いたしました平成23年3月期第2四半期の業績予想値と実績値の差異を上記のとおりお知らせいたします。また、連結業績予想値と実績の差異の要因は、かかる個別業績予想値と実績値の差異によるものです。

2. 平成23年3月期通期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）業績予想の修正

(1) 個別業績予想数値の修正

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	16,000	340	240	△500
今回修正予想 (B)	15,300	0	△80	△820
増減額 (B - A)	△700	△340	△320	△320
増減率 (%)	△4.3	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成22年3月期)	15,953	△651	△719	△892

(2) 連結業績予想数値の修正

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	16,000	340	240	△500
今回修正予想 (B)	15,300	0	△80	△820
増減額 (B - A)	△700	△340	△320	△320
増減率 (%)	△4.3	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成22年3月期)	15,953	△654	△720	△896

(3) 修正の理由

平成23年度3月期第3四半期、同第4四半期におきましては、人員削減等更なるコスト削減により営業利益の期間黒字化に取り組んで参りますが、平成23年3月期第2四半期の業績修正の要因の影響により、平成22年6月30日に公表いたしました平成23年3月期通期の業績予想を上記のとおり修正いたします。また、連結業績予想の修正の要因は、かかる個別業績予想の修正に伴うものです。

尚、平成23年3月期における人員削減等コスト削減策の効果と、営業努力による受注契約残の安定化と利益水準の向上により、平成24年3月期は、平成22年2月18日に公表しました「中期経営計画の修正に関するお知らせ」の平成24年3月期計画を達成すべく邁進していくものです。

3. 配当予想の修正

(1) 配当予想数値の修正

1株当たり配当金			
基準日	中間期末 (第2四半期末)	期末	年間
前回予想	0円 00銭	5円 00銭	5円 00銭
今回修正予想	0円 00銭	0円 00銭	0円 00銭
前期実績 (平成22年3月期)	0円 00銭	0円 00銭	0円 00銭

(2) 修正の理由

当社は、中長期的な企業価値の向上と株主の皆様方への利益還元のバランスの最適化を経営の最大課題と位置づけております。また、配当の実施においては、企業の経営基盤の強化を図りながら、当該決算期および今後の業績、財務状況等を勘案して総合的に判断してまいりたいと考え

ております。

しかしながら、平成23年3月期通期において、当初予想を大幅に下回る当期純損失を計上する見込となり、今後も厳しい経営環境が予測されます。当社といたしまして、財務基盤の強化が最優先課題と判断し、誠に遺憾ではございますが、期末配当予想および年間配当予想を無配とさせていただきます。

※ 上記の予想は、本資料発表日現在における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、実際の業績は今後の様々な要因により、記載の予想数値と異なる可能性があります。

以 上